

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572710424		
法人名	有限会社 Slow and Slow		
事業所名	悠々庵花ごよみ		
所在地	秋田県横手市大雄字西館合75		
自己評価作成日	令和3年9月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は四季折々の風景を楽しめる環境にあります。「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を運営理念に掲げ、利用者のペースに合わせた支援を行なっています。職員は日々の業務の中で利用者と一緒に家事作業が行えるよう、常に環境を整えています。また、職員の介護力アップのため、内部研修や外部研修に参加し、資格取得に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」という理念を日常のケアの中で具現化するため、日々の生活の中で、利用者と共に行動すること、利用者が生活者の一員として役割を果たせるよう、慣れから生じる職員主導のケアに陥らないように、利用者主体のケアを意識した取り組みを行っている。  
職員の資格取得の奨励、各種研修会への積極的な参加、役職員による職員評価などは職員のスキルアップや業務に対する意欲の向上、離職者の減少につながっている。  
コロナ過、家族や地域住民、外部関係者等との交流は難しい現状にあるが、書面等でホームの状況を伝えながら、協力関係を継続できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を全職員が共有し、意識しながら活動している。	理念は設立当初から引き継がれており、日々の生活の中で、利用者と共に行動すること、利用者が生活者の一員として役割を果たせるよう職員が一丸となってケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の中、今年度は交流を図るのが厳しい状況です。	コロナ禍、家族等の面会やボランティアの受け入れなどを制限しているため、地域との日常的な交流は難しい状況にあるが、地域の小学校が学校田で収穫した新米を届けてくれたり、地区の道路沿いに植えられた花を見に出かけたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	機会ある毎に認知症について地域の人々に伝えているが、コロナ禍の中、充分行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため運営推進会議は開催できず、本年度は文書での報告となっている。	コロナ禍、集合会議は開催していないが、書面での近況報告等を会議録で確認。また、各委員にはグループホームの通信も毎月送付し、ホームの状況を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回程、横手市の相談員の受け入れを行わない、利用者の日々の生活状況を伝えているが、今年度は相談員の訪問を中止させていただいている。	地域包括支援センターとは随時連絡を取り合ったり、月1回発行される広報「訪問だより」で情報を共有したりしている。生活保護担当ケースワーカーとは面談や電話連絡等で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的 to開催するとともに、管理者を中心に社内研修を行ない、拘束を行なわないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束廃止も含めたりスクマネジメント委員会を3か月毎に開催。年間の事業計画に具体的な研修内容が盛り込まれ、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、委員会を定期的 to開催するとともに、管理者を中心に社内研修を行ない、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修を今年度は、受講する機会を設けることができない状況です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書等を分かりやすい言葉を使用しながら説明し、一つひとつ意向を確認しながら同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設けていないが、面会時や電話等で、利用者家族に要望や意見を述べて頂いている。また、要望や意見については職員間で話し合い改善できるよう努めている。	利用者からの要望や意見は日常のケアの中で把握している。家族からは電話やライン面会等の際、意見や要望をうかがっている。ケアプランに対する要望を書面で頂くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員が意見や提案を出しやすい環境を作っている。又、定期的に管理者会議を開催し、職員の意見や提案を反映するようにしている。	ユニット毎に行われるカンファレンスで提案された事項を管理者会議で取り上げ、職員の意見や提案を運営に反映している。また、年2回、役員が全職員と面談し、意見や提案を聞く機会を設けている。消雪設備の改修が実現された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績、勤務状況に則した介護職員処遇改善加算と特定加算の実施。又、資格取得を奨励するとともに、資格取得に必要な経費の援助、勤務シフトの調整などを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は少ない状況だが、管理者を中心に内部研修を定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域ケア会議に参加し他事業所との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学や事前の面談を通して本人の不安や要望をしっかりと聞き、本人の気持ちを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や、事前面接を通して家族等の話をしっかりと聞き、家族等の気持ちを受け止めるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者から生活の知恵を学び、一緒に料理をしたり、花や野菜の水やりをしたり、喜怒哀楽を共にできるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族に「花ごよみ便り」で日頃の暮らしぶりを伝え、本人の状態変化が起きた場合には速やかに報告連絡を行ない、本人の生活を家族と共に支援していくよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や病院、自宅への外出など本人がこれまで培ってきた人間関係や地域との関係を断ち切らないよう支援を行っている。 今年度は難しい状況です。	地元出身で馴染みの方が訪問理容を行っている。コロナ禍、外出は難しい状況にあるが、ドライブしながら観桜は実施できた。今月から面会制限を緩和し、家族等との面会を再開している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を理解し、共通の話題や作業などを通して、利用者が孤立せず、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であっても、経過を見守ったり支援が必要な場合は継続して支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が、日々の会話の中から、一人ひとりの思いや意向をくみ取るようにしている。	本人の思いや意向を日常のケアの中で把握し、意向に沿えるよう努めている。「今お風呂の気分じゃない」「ヨーグルト食べたい」「誕生日に○○食べたい」等の要望に応じている。また、ちぎり絵や刺し子などの趣味活動の継続も支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や家族から情報をいただき、これまでの暮らし方について把握するようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のミーティングや介護記録を通して、一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態など、日々の暮らしの中で把握するようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が意見を出し合い、アセスメントとモニタリングを行いながら計画書を作成している。また、本人、家族等の要望や変化に応じて見直しを行っている。	カンファレンスで出された職員の意見、家族からは面会や手紙、電話で意向をうかがい計画に反映させている。担当者会議に家族や主治医が出席することもある。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護日誌、連絡ノートを活用しながら職員間で情報を共有し、計画書の見直しを行なっている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の行事や地域のお祭りに参加したり、楽しむ体験を支援していますが今年度は地域行事が中止になり、行事食の弁当を依頼するなど活用している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得たうえで、協力医療機関より、月1回の訪問診療と週1回の訪問看護があり、適切な医療を受けられる体制をとっている。	訪問診療の医師からは「わからないことがあれば、何でも聞いて欲しい」と声掛けされており、話しやすく、安心して医療を受けられる関係が築かれている。薬局との関係も良好で、いつでも相談できる状況にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、訪問看護ステーションと24時間相談が受けられる体制をとっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携により、24時間体制で緊急時の対応ができ、入退院時の場合は速やかに情報交換ができる体制をとっている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、本人家族の考えを聞くとともに、重度化した場合は事業所の指針を説明し、同意をいただいています。また、職員、家族、医療関係者等と連携を図りながら支援に取り組んでいる。	本人・家族の意向をうかがいながら重度化やターミナルケアの対応を行っている。医療機関や訪問看護ステーションが24時間体制で対応してくれることが、大きな支えとなっている。これまで2名の方の看取りを行ったが、その後、8年以上は看取りの実績はない。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを全職員が目を通せるようにしており、定期的実践訓練を行なっている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(夜間想定含む)の火災・避難訓練を行なっている。 緊急連絡網に地域の方々も含めており、緊急時には協力いただく体制をとっている。	水害時の避難訓練は未実施だったが、今年6月に避難場所の小学校まで職員が実際に歩いて距離を測定したり、発電機や拡声器の購入を検討したりするなど、具体的な課題を明らかにしながら災害対策に取り組んでいることが記録から確認できた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、本人に合わせた言葉使い、タイミングを見ながらの声かけ、声のトーンや表現方法に気を付けている。	話しかける際は声のトーンに気をつけたり、排泄誘導は周囲に気づかれないよう耳元で声をかけたり配慮している。入浴は希望に応じて同性介助を行っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望や訴えに傾聴し、日常行動を理解しながら、本人が自己決定しやすい場面をつくっている。又、コミュニケーションが取りにくい場合は、出来るだけ本人が望むであろうことを推測考えながら、支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて支援を行なっている。表現の難しい方は、様子や行動から希望を察し対応している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヵ月毎に理容・美容を行ない希望のヘアスタイルに合わせたおしゃれができるようにしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や畑で採れた野菜など、職員と利用者で楽しみながら調理している。また、利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。	プランターできゅうり、なす、ピーマン、ミニトマトなどを栽培し、利用者と一緒に収穫。収穫した野菜は食卓に並ぶ。旬の食材が家族から差し入れされることもある。利用者から「やろか」と声がかかり、山菜等の下処理や食器拭き等職員と一緒にやっている。コロナ禍、外食はできていないが、テイクアウトの弁当をメニューに盛り込むなどして喜ばれている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状態や食習慣に配慮しながら食事を提供し、一人ひとりの食べる量や水分の摂取量を記録し状況を把握できるようにしている。水分不足が起こらないよう定期的に訪問看護や主治医に相談している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後行なっている。利用者の口腔状態によっては、協力歯科医院に相談し訪問治療、指導を受けている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた誘導を行ない、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握している。夜間のみ居室でポータブルトイレを使用している方もいるが、日中はトイレでの排泄を支援している。退院後、オムツからリハビリパンツに変更するなど排泄の自立に向けた支援を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックや食事量・水分量のチェックを行なうとともに、自然排便ができるように食材の工夫やラジオ体操などで身体を動かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は、バイタルチェックを行ない健康状態を確認している。 職員の都合ではなく、本人の希望やタイミングに合わせるようにしている。	最低でも週2回は入浴していただくようにしている。同性介助を希望される方、一番風呂に入りたい方等個々の希望に応じた支援をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間気持ちよく眠れるよう、日中の活動や作業などを、本人に合わせて行なっている。また、本人の活動状況やストレスの状態等を職員全体で検討を行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している個々の薬の内容は、個人ファイルに綴じ全職員が目を通せるようにしている。 飲み忘れや誤薬がないよう、薬に関わる職員がその都度確認を行っている。薬の変更や臨時薬については、申し送りや連絡ノートで確実に伝達するようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事や作業、レクリエーションなどを通して個々の役割を感じていただく場面を作るようにしている。 また、誕生会を毎回みんなで行ない楽しみを共有している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の下、外出が難しい状況ですが身体状態を見ながら散歩や買い物支援を行っている。	コロナ禍、例年のような外出支援は実施できない状況が続いているが、ドライブ外出や通院の帰りにコンビニで買い物をするなど現状でできる範囲の支援をしている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことについては、家族と相談しながら支援している。欲しいものがあれば、職員が頼まれて買い物を行なっている。お金を自分で持っていたいと希望があれば、2～3千円程度持っていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族やなじみの方からの電話など職員が見守りしながら対応している。親族、知人から絵葉書など届いた際は職員が読み聞かせている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、明るく清潔を心がけ、居心地よく過ごせるよう工夫している。室温、湿度については毎日チェックをし、事業所内はいつも季節の花を生けている。	できるだけ自宅に近い雰囲気味わってもらうため、壁には過度な装飾や掲示物を貼らないよう心掛けている。季節ごとの装飾や行事の写真を貼る程度にし、ゆっくり居心地よく過ごせるよう工夫している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、気の合う利用者同士で会話ができたり、リビングに本や雑誌を置いて読書できるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団やタンス等の持ち込みや、家族の写真などを飾り、居心地良く過ごせる環境を作るようにしている。	自宅で使っていたコタツ、座椅子、遺影、孫の写真などを居室に置き、利用者ひとり一人が居心地よく過ごせるよう工夫している。ロッカーやタンスも個々に好みの物を設置している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は、整理整頓を心がけ安全の確保に努めている。 トイレの表示や、居室入口には本人の承諾を得ただけ名前を表示している。		